



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2024.5-6

No.464

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



2024年冬 カモ科カウント調査結果

日本野鳥の会埼玉 調査部

今回の調査は2024年1月6日～1月15日の予定(実績は1月6日～1月23日)で、県内85ヶ所(場所数は前年より1箇所減、減は長期間カウントされていない場所)で行われました。

この調査で17種(去年は19種)、総個体数13,556羽が記録されました。去年の羽数(15,337羽)に対して11.6%と大きく減少しています。過去の実績では大きく減少した年もあるので今年の11.6%減は直ちに異常とまでは言えません(グラフを参照して下さい)。

調査地数は変化しているのですが、調査全体の羽数だけでなく、調査地数当たりの羽数もプロットしました。グラフからは、全体の羽数だけでなく調査地当たりの羽数も減少傾向にある事が分かります。

今年の羽数の減少は暖冬の影響が推測されます。上位種の羽数を見るとカルガモ(留鳥)が首位にランクされています。通常はカルガモより多いか同等のマガモ、コガモ(共に冬鳥)が、カルガモより少なくなっています。

〈カモ科カウント調査の新規協力のお願い〉

この地域ならカウント調査を行ってもよいという方がいらっしゃいましたら、

research@wbsj-saitama.org(調査部)に

連絡を頂けると有難いです。



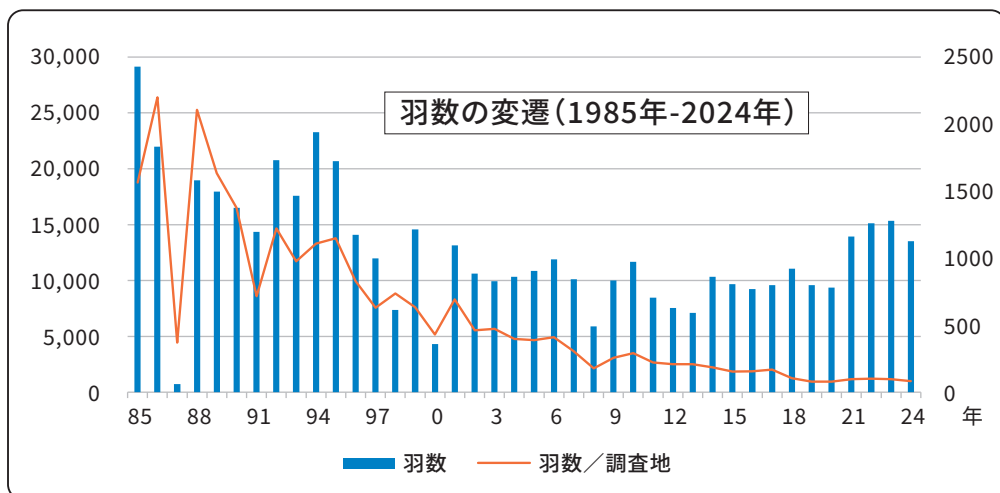
調査部メールアドレス

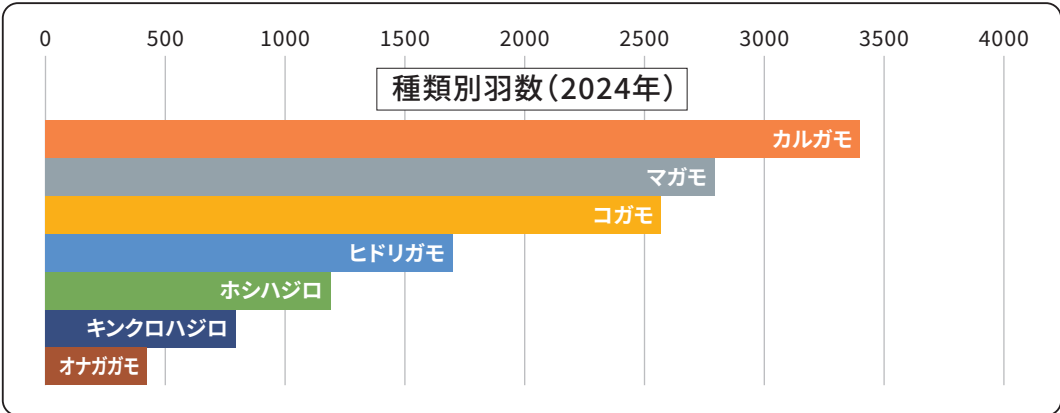
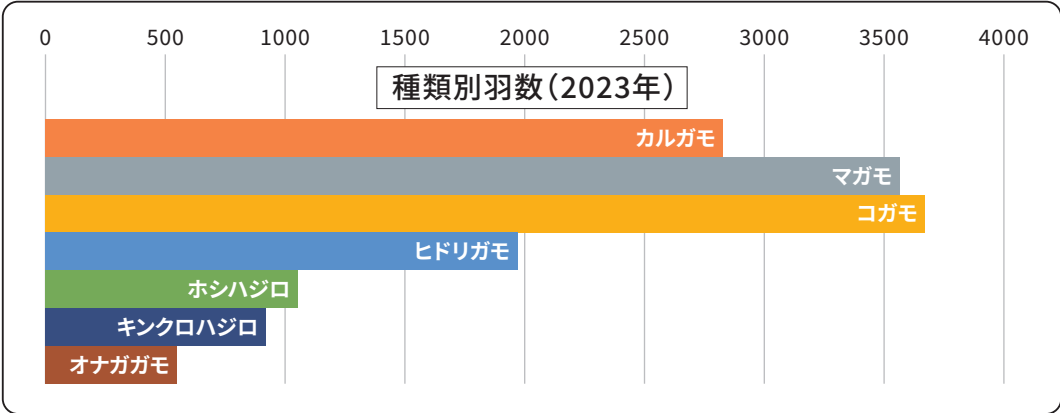
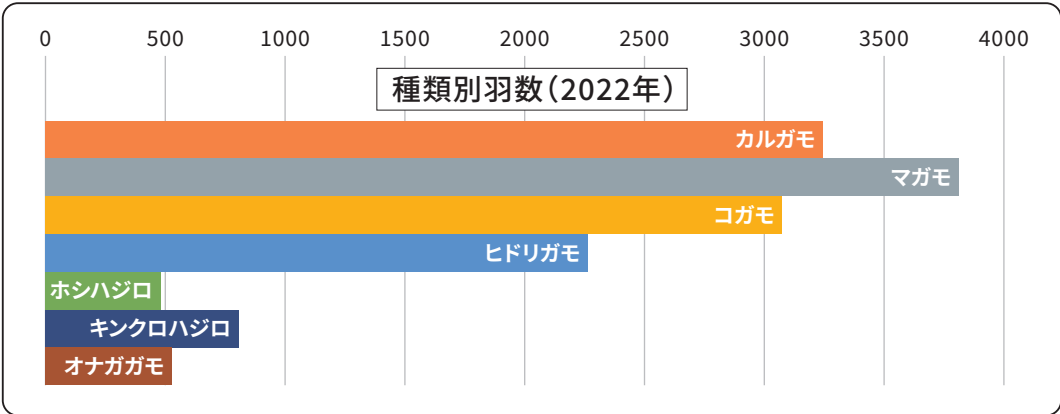
〈御礼〉今回の調査は54名の方にご協力いただきました。厳しい寒さの中での調査、お疲れ様でした。心より御礼申し上げます。今後とも、ご協力よろしくお願い申し上げます。

(調査部 三好正幸)

〈調査協力者〉(敬称略、五十音順)

相原修一、相原友江、浅子利男、浅見健一、浅見 徹、新井 巖、石井 智、石川敏男、石光 章、伊藤芳晴、井上幹男、今村富士子、海老原教子、大畑祐二、金井祐二、河辺典子、小林 茂、小林千明、小林ますみ、小林みどり、小林洋一、五月女恭男、佐久間博文、佐野和宏、嶋田富夫、白石優子、鈴木 功、鈴木紀雄、鈴木秀治、瀬尾桂一、千島康幸、手塚正義、富田英紀、富田由香、長野誠治、長野真由美、中村 治、中村豊己、野口 修、長谷部謙二、畠山 孝、東島正幸、菱沼一充、菱沼洋子、藤澤洋子、別井利次、細田芳夫、三好正幸、茂木幸蔵、森本國夫、守屋 久、山部直喜、吉原早苗、吉原俊雄





羽数増減比較(2024年/2023年比)

総計&増減比	コハクチョウ	オオハクチョウ	オシドリ	オカヨシガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	アメリカヒドリ	マガモ	カルガモ	ハシビロガモ	オナガガモ	トモエガモ	コガモ	オオホシハジロ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	カワアイサ	カモ不明種	カモ交雑種	カモ類個体数	カモ科種類数	カワウ
2024年種類別総計	186	0	10	103	92	1698	0	2788	3399	153	423	8	2575	0	1191	799	4	15	62	4	45	1	13556	17	993
2023年種類別総計	247	0	82	72	49	1963	1	3560	2821	158	548	67	3664	1	1051	919	18	26	55	24	6	5	15337	19	1306
増減比(2024/2023)	0.75	-	0.12	1.43	1.88	0.87	0.00	0.78	1.20	0.97	0.77	0.12	0.70	0.00	1.13	0.87	0.22	0.58	1.13	0.17	7.50	0.20	0.88	0.89	0.76

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●カツオドリ属の一種

英名 booby

学名 *Genus Sula*

分類 カツオドリ目カツオドリ科カツオドリ属



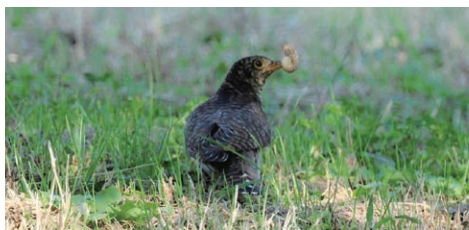
野鳥 実さん、日下部 宏さん(ともに未入会の方)より、2023年12月11日に所沢市の狭山湖堤防から撮影されたカツオドリ類の写真が相次いで寄せられました。野鳥さん撮影の写真(上掲写真ほか1枚)はこの鳥を大きく捕らえたもので、全身の様子がわかります。日下部さん撮影の写真(6枚)は、たまたま居合わせたオオタカからモビングを受けてからの顛末を写し出しています。

野鳥さんのお話に拠れば「午前10時48分ごろ、狭山湖堤防の東から西へ湖面上を飛んだ。オオタカからモビングを受け、狭山湖の西側奥へ飛び去った。」ということでした。

寄せられた写真からは、ほぼ真っ白な全身、黒褐色の風切と尾羽先端、青黒色の顔の裸出部などの特徴が読み取れ、アオツラカツオドリ *Sula dactylatra* のように見えます。しかしその一方、嘴の色が橙色を呈している点や初列雨覆が白色であることに着目すると、我が国未記録(ただし論文発表はあり)のナスカカツオドリ *Sula granti* ということも考えられます。そこで当委員会は慎重を期して種の断定を避け、今回の事例はカツオドリ属の鳥が記録された、という発表にとどめます。

ツツドリの地上採餌

藤原寛治(さいたま市)



鳥友のOさんからM公園のツツドリが地面に降りて餌を捕っているという情報が寄せられました。ツツドリといえば秋の渡りの時期に桜の木などで毛虫を捕食することがよく知られていますが、地面で餌を捕っているということは聞いたことがありません。

2023年11月3日、M公園に行きました。Oさんも来ていて、あそこにツツドリがいると手招きしてくれました。

見ると、1羽のツツドリが樹上にいて、ほどなく、とまっていた枝から地面に降りました。ヒョイッと大き目のコガネムシの仲間と思われる幼虫をくわえ(写真上)、辺りを見回してから飛び去りました。その後も数回、同様の行動が見られました。

その後、一旦、その姿を見失いましたが、再び枝にとまっているツツドリを発見。少しすると、やはり地面に降りました。今度は土をしきりにつついて、更に全体重を嘴にかけるようにして地面にねじこんでいます。10分近く地面と格闘?し、ようやく大きな幼虫を捕らえました(写真下)。その直後、人が近くを通りかかりましたが、しっかりくわえて飛び去りました。また、別のツツドリも同じように地上で採餌していましたので特定の個体だけに見られる行動ではないように思います。

ツツドリは木の上の毛虫だけでなく、地面の幼虫も捕食しているのですね。



2023-24年 ツバメ越冬の記録

— 鴻巣市栄町での観察 —

榎本秀和(鴻巣市)

そもそもの始まりは、去る2023年10月26日、ウチの長女が季節はずれのツバメを1羽目撃したことだった。

渡りそびれたツバメかな? などと話していたのだが、このツバメ、その後もときたま姿を見せて、我が家の団欒に恰好の話題を提供し続けてくれた。

ツバメを見かける場所は鴻巣市栄町(メッシュコード54390470)。JR高崎線鴻巣駅にもほど近い線路沿いの小道だ。

通りがかりのぱっと見の観察ではあるが、以下、我が家の家族による10月来の記録である。観察日等:観察者:メモの順で記した。

- 10/26 長女:電線に止まってぐずる。
- 11/13 長女:電線に止まってぐずる。
- 11/15 長女:飛んでいる姿を視認。
- 11/27 長女:電線に止まる姿を視認。
- 12/01 長女:電線に止まってぐずる。ねぐらはJRの線路を挟んだ向こう側(鴻巣市雷電一丁目のマンション屋内駐車場、メッシュコードは栄町と同じ)。繁殖あとの古巣にそのまま居ついているもよう。
- 12/15 筆者、妻:飛んでいる姿を視認。
- 12/26 長女:電線に止まってぐずる。
- 12/28 筆者:年末の大掃除のためか、ねぐらの古巣が取り払われていた。その後のねぐらは不明。
- 01/18 筆者、妻、長女:電線に止まってぐずる。
- 01/30 長女:飛んでいる姿を視認。
- 02/19 筆者:電線に並んで止まる2羽を視認。ということは、越冬(おつねん)したツバメは2個体だったということになるか。両個体ともほとんど尾羽が伸びていなかったことから、2023年生まれの子鳥と思われる。
- 03/11午前 筆者:JRの線路の向こう(雷電一丁目)を飛んでいる1羽を視認。

同日昼過ぎ 長女:雷電一丁目で、電線に止まる1羽を見つける。場所は以前のねぐらの近くとのことで、いつものツバメと思われる。筆者が午前中に目撃した個体とも同一か。

03/15朝9時過ぎ 長女:栄町と雷電一丁目の区域が接する上空を、鳴きながら飛んでいる2羽を視認。ツバメの渡来にはまだ少し早いと思われるので、たぶんいつものツバメであろう。

03/25夕方 妻:栄町のいつもの場所で、飛んでいる1羽を視認。そろそろツバメの渡来が始まる時季ではあるが、この1羽は今まで見てきた越冬ツバメではないか。このメッシュ内では、今季はまだツバメの渡来を確認していない。

03/27正午 筆者:同じメッシュ内である鴻巣市大間一丁目で、飛んでいるツバメ1羽の姿を視認。ツバメの渡来が例年並みに始まったと思われる。この日以降、大間一丁目では複数羽のツバメが普通に見られるようになった。このことは栄町においても同様と推定されるので、2024年3月27日をもって足掛け6ヶ月にわたったツバメ越冬の記録を終了する。

〈参考〉隣接するメッシュコード54390460の鴻巣市逆川二丁目においても、2024年のツバメの今季初認は3月27日であった。

〈感想〉当地はもちろんのこと、埼玉県全体を見渡しても、ツバメの越冬というのは珍しい事例に属することだろう。やはり生息環境の温暖化に起因するものであろうか。

とはいえ、暖冬傾向の中にあっても寒気の厳しい日、大風の日、降雪の日もあり、筆者にとっては気の揉める一冬だった。

越冬す十月来の寒燕



野鳥情報

松伏町大川戸 まつぶし緑の丘公園

◇10月14日、キビタキ♂1、狭い範囲を飛び回っていた。エゾビタキ2、ツツドリ1、マガモ1、コガモ4、ハシビロガモ♀1、モズ♂、♀、コゲラ、シジュウカラ、エナガ、カケス。(藤原寛治)。

◇10月15日、オシドリ♂1、♂エクリプス1、♀1、ゴイサギ6、ツツドリ幼鳥1、アオバズク1(下写真)、カケス4、エナガ10+、メボソムシクイ1、エゾビタキ1(鈴木 功)。



さいたま市緑区大門

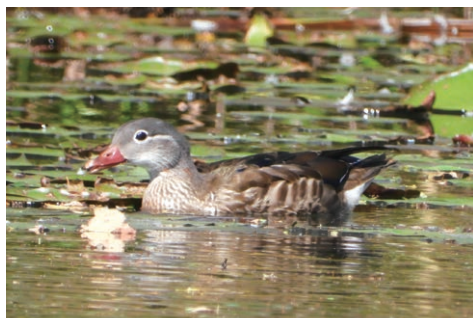
◇10月16日、JAさいたま上空でノスリ1、カラス2に追われて北へ飛ぶ。10月18日、ヒヨドリの群れ40±、西へ飛ぶ。10月27日、ジョウビタキの声。今季初認(藤原寛治)。

さいたま市見沼区膝子

◇10月17日、セイタカアワダチソウなどが茂る草原から鳴きながらビンズイ1(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区 見沼自然公園

◇10月20日、オシドリ♂エクリプス1(下写真)、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、シジュウカラなど(嶋田富夫)。



◇11月19日、公園の池でカワセミ、アオサギ、ダイサギ、カワウ、バン、オオバン、カイツブリ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、オカヨシガモ約30。繁殖羽移行中で何やらみすぼらしい姿のオシドリ♂1(鈴木紀雄)。

鴻巣市大間1丁目

◇10月24日、ジョウビタキ♂1。午後1時20分頃、声に気が付き、同3時に姿を確認。今季初認。10月31日午前7時10分頃、ツグミ1、「クイックイッ」という声を二度発しながら上空を通過(榎本秀和)。

蓮田市 山ノ神沼

◇10月21日、マガモ、カルガモ、コガモ、モズなど(長嶋宏之)。

◇11月13日、ヒドリガモ1、マガモ34、カルガモ27、オナガガモ1、コガモ26、カイツブリ、ゴイサギ、ダイサギ、オオバン、カワセミ、ハクセキレイなど(嶋田富夫)。

白岡市 柴山沼

◇10月21日、カルガモ、モズ、ハクセキレイなど(長嶋宏之)。

越谷市 越谷レイクタウン(53396655)

◇10月21日、アカゲラ♂1、オオムシクイ1(鈴木 功)。

川越市 伊佐沼

◇10月21日午前10時～午後2時、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、イカルチドリ、コチドリ、セイタカシギ、アオアシシギ、コアオアシシギ、ハマシギ、クサシギ、イソシギ、タシギ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、オナガ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ。池の北側にシギチが集まっていたので観察しやすかった(千葉孝仁)。

◇10月23日、ハクセキレイ7、セグロセキレイ4、ダイサギ18、アオサギ9、カルガモ48、コチドリ12、ヒバリ8、キジバト、コサギ12、モズ、カワラヒワ10、ツグミ5、カワセミ2、コガモ34、コゲラ、シジュウカラ、ヒドリガモ18、カワウ5、カイツブリ成鳥、幼鳥含め12、ジョウビタキ、トウネン。セイタカシギ成鳥8、幼鳥6、水位が少ない処に横に並び1羽ずつ長い足をゆっくり曲げ座っていく様子を

見ることが出来た(村越百合子)。

◇11月7日、南エリアでヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、セイタカシギ、オオハシシギ、タシギ、ツルシギ、アオアシシギ、ミサゴ、カワセミ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワなど(嶋田富夫)。

久喜市菖蒲町小林

◇10月22日、電線にミヤマガラス5(鈴木紀雄)。

久喜市菖蒲町上大崎

◇10月22日、採餌するミヤマガラス30の群れ(鈴木紀雄)。

蓮田市江ヶ崎

◇10月22日、カケス6が次々南へ飛ぶ(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜

◇10月22日、国立病院機構東埼玉病院敷地内でカケス、アカゲラ。シジュウカラ、コゲラ、メジロ、エナガの混群。10月23日、上沼周辺でカイツブリ成鳥6、若鳥1。成鳥が若鳥に餌やりをしていた。バン1、コガモ2、ホシハジロ♀1、モズ多い、カケス1飛翔、カワラヒワ、アオサギなど。ヨシ原北縁でキビタキ♀1、ウグイス地鳴き、クイナ1、シメ3、アカゲラ♂1、アリスイ、カケス。オナガの声。ガビチョウの声。上沼ヨシ原北縁でクイナ1、シメ1、アカゲラ、オオジュリン。ウグイスの声。10月24日、国立病院機構東埼玉病院敷地内で枯れた杉の樹冠でフライングキャッチしては戻るエゾビタキ1。カケス多い。11月3日、下沼の南側でミヤマガラス約20。上沼周辺でヒクイナの声がヨシ原の中から聞こえた。ダイサギ1、コサギ1、アオサギ1、カイツブリ7、コガモ♀1、カルガモ4、オオジュリンの声、アリスイの声。ツグミ4の2群が上空を飛び回る。11月8日、上沼の対岸、水面ぎりぎりのヨシにつかまるヨシゴイ1。鳴きながらヨシにつかまって出てきたヒクイナが水面上を5m程こちらに向かって飛び、手前のヨシ原の中へ。飛んだ時、翼前縁に白いラインが見えた。弁天北側の三角形のヨシ原からアリスイの声。探していたら、上沼のヨシ原へ飛んだ。オオ

ジュリン1がヨシ原から飛び出す。上沼でダイサギ1、アオサギ1、コガモ1、オオバン、カワセミ、カイツブリなど。ヨシ原北縁でヤマガラ1、ジョウビタキ、モズ、カケスなど。11月14日、上沼周辺でオオバン8、カイツブリ5、ダイサギ1、アオサギ1、コサギ1、バン2、ヒクイナ1及びヒクイナの声3、クイナの声3、アカゲラ♀1、モズ、オオジュリン、ウグイス、ホオジロ、アオジ。同日夕刻、ツグミ50+が次々にヨシ原に群入り。11月15日、水面近くの草の中をヒクイナが移動。同日、下沼周辺でミヤマガラスとハシボソガラス70の混群。同日午後5時前、上沼ヨシ原北縁でヒクイナの声、計5ヶ所から。クイナの声は2〜3ヶ所。ヒクイナの越冬数の方が多いのでは? 鳴きながらビンズイが灌木に飛来。イソヒヨドリに似た尾の振り方をしつつ、辺りを見回した後に、スッと下の茂みの中へ入った。群入り? 11月19日、下沼周辺でミヤマガラス80、ノスリ1。11月23日、下沼周辺でコチョウゲンボウ♂1、飛来して樹冠にとまる。赤みのある胸〜腹、濃い青灰色の上面のコントラストが美しかった。同日、上沼周辺でベニマシコ♂1。同日、上沼北側のヨシ原でエノキの実にツグミ10+。ジョウビタキ♀2が強く鳴いて縄張り争い。シメ2、カシラダカ確認。クイナ、ヒクイナの声。同日、国立病院機構東埼玉病院敷地内でムクノキの実にシロハラ3+(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区、戸田市道満

◇10月23日、彩湖北側より左岸釣り堀まで、キンクロハジロとホシハジロ混群約110、ユリカモメ1、カンムリカイツブリ夏羽1、カイツブリ2、オオバン6、アオサギ、カルガモ、ハクセキレイ、シジュウカラなど(陶山和良)。

蓮田市 西城沼公園とその周辺

◇10月23日、ジョウビタキ♂2羽が鳴き合う。今季ここでの初認。10月28日、オオタカが屋敷林からキジバトを追って飛び出した。狩りは失敗だった。他にコジュケイ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、コゲラ、モズ、オナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ハクセキレイなど。11月6日、夏季にいなかったカルガモが西沼に1羽戻って来た。11月12日、TVのアンテナにツグミが1羽。今季ここでの初認。11月15日、

夏季の間いなかったコサギが1羽、西沼に戻って来た。11月23日、カルガモが5羽に増えていた。今後さらに増えるだろう。同日、17羽のツグミが農家の柿の実を啄んでいた(長嶋宏之)。

蓮田市笹山

◇10月23日、雑草地にノビタキ1。北側高空で舞うミヤマガラス?約30の群れの中にオオタカ1。緊迫感なし(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区太田1丁目

◇10月23日、ジョウビタキ♀1、今季初認。モズに追われながらも桜の樹冠で鳴いていた。11月3日、ツグミ1、鳴きながら上空通過。今季初認(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区南辻

◇10月23日夕刻、久伊豆神社の森に峙入りする前に電線にズラッととまっているカラス。ほとんどがハシボソガラス。他にミヤマガラス1。11月14日、遊水池でコガモ20、オカヨシガモ♀2、ヒドリガモ♀2、コサギ2、カワセミ♂1(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区加倉5丁目

◇10月24日、ジョウビタキの声を聞く。今季初認(藤原寛治)。

鴻巣市栄町

◇10月26日、ツバメ1。帰り遅れたものか、電線にとまってぐずっていた(榎本菜摘野)。

白岡市 白岡市総合運動公園

◇10月27日、ヒドリガモ、カイツブリ、ダイサギ、コサギ、オオバン、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区本宿

◇10月28日、収穫後の水田にタヒバリ8。用水の中でタシギ1が採餌(鈴木紀雄)。

草加市柿木町 そうか公園(53396636)

◇10月28日、アカゲラ♀1、イスカ10+。イスカは早朝、北池周辺の黒松で群れを観察した。11月5日、ツツドリ幼鳥1、イスカ10+(右上写真)。イスカは早朝、島の松と北池周辺の松に飛来。先週末も同じ群れを見ているので1週間滞在。11月11日、ツミ幼鳥2、チョウゲンボウ2、イスカ幼鳥1。11月12日、アカゲラ♀1、キセキレイ1。イスカは確認できず。11日が終認と思われる(鈴木 功)。



越谷市増林

◇10月29日、コチョウゲンボウ♀型1、コクマルガラス暗色型4、ミヤマガラス200+(鈴木 功)。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園

◇10月30日、村国周辺でシジュウカラ、コゲラ、メジロ、エナガの混群。頭部の白っぽい、通称「チバエナガ」2羽確認。カケス3、ムクドリなどの群れが飛び回り、ヒヨドリ多い。モズ、カワセミ、アオジ♀、ジョウビタキ♀、アカゲラ♀など。ウグイスの音が6ヶ所で響く。元荒川はダイサギとカルガモの群れのみ。上空より「ビリリリ…」と少々濁った声が2度聞こえたが、姿見えず。リュウキュウサンショウクイと思われる。11月19日、カルガモ、アカゲラ、コゲラ、モズ、カケス、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ♂、ジョウビタキ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワなど(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区本丸

◇11月3日夕刻、マミーマート前の電線にズラッと並ぶミヤマガラス約90(鈴木紀雄)。

越谷市 越谷レイクタウン(53396655)

◇11月12日、カンムリカイツブリ4(鈴木 功)。

越谷市西方 葛西用水路

◇11月12日、オシドリ♀1(鈴木 功)。

さいたま市緑区 緑のトラスト保全第1号地～見沼自然公園

◇11月12日、緑のトラスト保全第1号地でメジロ、エナガ、シジュウカラ、ホオジロ、ウグイス、アオサギ、上空にツグミ39、カワラヒワ、カワウ、モズ、コゲラ、カルガモ、アオジ、ホオジロ、ジョウビタキ♂♀、ダイサギ、シメ、キセキレイ、シロハラ。鶯神社の巨木にアカゲラのペア、セグロセキレイ。野田小学校側の農地でカケス10、ハクセキレイ3、シメ7、オオタカ2、

アカハラ。見沼自然公園でオオバン、コガモ、ヒドリガモ、マガモ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、カイツブリ、オナガガモ、ヤマガラ、オシドリ(村越百合子)。

川越市 新河岸川(53396471)

◇11月15日、旭橋下流でヒドリガモ、アメリカヒドリ(下写真)、カルガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、カワセミ、ツグミ、ハクセキレイなど(嶋田富夫)。



さいたま市岩槻区 岩槻城址公園

◇11月15日、公園西縁でヤマガラ1。公民館裏手でヤマガラ2、コゲラ3、シジュウカラ、メジロの混群が1～2mの高さを動き回る(鈴木紀雄)。

上尾市向山

◇11月16日、近くの電線にとまっているハシボソガラス39の中に1羽違う鳥がいた。何かな?様子を見ているとトラフズクだった。カラスの群れを振り切るように飛び去ったがその後が心配される(村越百合子)。

久喜市 久喜菖蒲公園 昭和沼

◇11月18日、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ウグイス、ハクセキレイなど(嶋田富夫)。

加須市下高柳

デンソー脇の調整池(54391429)

◇11月18日、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、イソシギ、トビ、ハクセキレイ、シメなど(嶋田富夫)。

東松山市 物見山周辺

◇11月19日、物見山入口～テーダマツ林～東

尾根道～コナラの森でメジロ、カワラヒワ。中の尾根道(照葉樹の森)でシジュウカラ、エナガ、ウグイス、コゲラ。トイレ～見晴らしの丘～見晴らし台でキジバト。階段を降りている時に沢山の鳥の声、探してみるとヤマガラ25。アカマツ林でアカゲラ4。入山沼でカワセミ。市民保全活動区域～地元企業保全活動地区でアオジ、カケス9、キジ。保全活動地区～岩殿観音でハクセキレイ、モズ。岩殿観音～物見山バス停でセグロセキレイ、ガビチョウ(村越百合子)。

伊奈町小室

◇11月20日、上空から「ビリリリ…」という少々濁って平板な声が届くも姿見えず。リュウキュウサンショウクイと思われる。ハシボソガラスのモビングを振り切ったチョウゲンボウ♂が真上を飛行(鈴木紀雄)。

上尾市地頭方

◇11月23日、大宮花の丘農林公苑方面から独特の声で沢山の鳥が近づいてくる。ツグミ102、声につられオナガ43が姿を見せてくれた(村越百合子)。

加須市道地(54391444)

◇11月23日、電線にミヤマガラス200+ (嶋田富夫)。

鴻巣市笠原(54390474)

◇11月23日、電線にムクドリ500+ (嶋田富夫)。

宮代町

◇11月28日、東武動物公園駅～笠原小学校でメジロ、ハクセキレイ。笠原小学校～笠原調整池～笠原沼落でカワラヒワ、ツグミ、ジョウビタキ、カワウ20、カルガモ。メディカルハーブガーデン～山崎山の雑木林でシジュウカラ、ウグイス、オナガ。緑のトラスト保全第5号地～内郷用水～あずまや橋でアカゲラ3、シメ、コゲラ、カワセミ、アオジ、キジバト、エナガ15、ヤマガラ。あずまや橋～東武動物公園駅でホオジロ、アオサギ、コサギ4(村越百合子)。

表紙の写真

スズメ目ヒタキ科ノゴマ属コマドリ

この日は、あの有名な鳴き声とダンスを披露してくれた。 鷺崎敏章(越谷市)



行事案内

要予約と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に氏名・住所・電話番号などを記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーやベテラン会員たちが望遠鏡で見せてくれます。**体調を整えてご参加ください。**



サシバ(石原和子)

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。**間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。**

一口メモ：1. **要予約**の探鳥会は特に記載のない限り会員限定で埼玉会員優先の先着順受け付けです。

2. [担当]欄 先頭に記載のリーダーが主担当者です。

熱中症が心配な季節です。体調を整え、睡眠を十分にとってご参加ください。探鳥会が始まったら、水分はこまめに補給しましょう。飲料水は必携です。12ページに、「探鳥会における熱中症対策ガイドラインについて」が掲載されていますので、ご一読ください。暑さ指数(WBGT)予測は、環境省の以下のサイトで発表されます。可能な方は、お出かけ前にご確認ください。

https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php



埼玉Young探鳥会 @新潟県・松之山

要予約

5/1からHPで受け付けています。すでに満席でしたらご容赦を。

期 日：6月23日(日)

担 当：入山、櫻井、佐野、廣田

※詳細はHP・SNSに掲載。

埼玉Young探鳥会@東京都・浮間舟渡

期 日：7月6日(土)

担 当：廣田

※詳細は6月上旬にHP・SNSでお知らせします。

長野県・軽井沢発地 ～池の平湿原探鳥会

要予約

期 日：7月6日(土)～7日(日)

集 合：6日午前7時、大宮駅西口ソニックシティ前。

解 散：7日午後5時ごろ、大宮駅周辺(交通状況によって変わります)。

交 通：集合地から貸切バス(25人乗り小型)を使用。

費 用：33,000円の予定(貸切バス代、宿泊費、2日目の昼食、保険料など)。
※参加者数によって変わります。

宿 泊：休暇村嬬恋鹿沢

<https://www.qkamura.or.jp/kazawa>

定 員：16名。※コースに高低差がありますので足腰の悪い方はご遠慮ください。

申し込み：当会HPで6月1日から受付開始。

担 当：菱沼(一)、浅見(徹)、佐野、菱沼(洋)

見どころ：高原の鳥達に会いに行く旅です、発地ではホオアカ、ノビタキ、コヨシキリ、池の平湿原ではホシガラス、ルリビタキ、ビンズイなどが観察できます。また、高山植物の女王コマクサなど40種程度の高山植物および高山蝶を観察します。

そ の 他：宿泊は原則男女別2名1室(夫婦は

同室)。※参加人数により変更する場合もあります。

越谷市・サギのコロニー観察会 ①

期 日：7月13日(土)
集 合：17時ころ、吉川市吉川、中川水道橋下。
解 散：日没18:59ころ、現地で。
交 通：JR吉川駅北口、茨急バス③乗り場、16:55発、17:26発、17:55発(あとは30分間隔)のエローラ行で「川富」下車、進行方向の交差点を左折徒歩100m。駐車場無し。
担 当：橋口、佐野、山部
見どころ：中川右岸(越谷市)のコロニーを対岸から観察。昨年8月31日には、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギの計1237羽を数えました。定点観察なので集合時間に関係なくご参加ください。参加費はいただきます。

長野県 松本市・乗鞍 ～上高地探鳥会

要予約

期 日：7月20日(土)～21日(日)
定 員：27名。最少催行人数22名。
申し込み：当会HPで6月1日から受付開始。
※詳細は前号3-4月号をご覧ください。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：7月21日(日)
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交 通：JR北浦和駅東口バスターミナルから東武バス①番乗り場 さいたま市立病院行で終点下車。
後 援：さいたま市立浦和博物館
担 当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、菅野、小菅、小林(み)、楠見、中橋、富田(英)、富田(由)、畠山、三好
見どころ：夏本番。短時間の探鳥会。芝川近くまで歩き、近くの木陰で鳥を探します。

狭山市・入間川定例探鳥会

期 日：7月28日(日)
集 合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交 通：西武新宿線 本川越8:41発、または所沢8:39発に乗車。
解 散：正午ころ、稻荷山公園で。
担 当：長谷部、石光、金井、小林(ま)、佐藤(久)、瀬尾、中村(祐)、山口、山本(真)
見どころ：サギの仲間を探します。とても暑い時期です、帽子、飲み物、健康な体が絶対必要。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期 日：8月4日(日)
集 合：午前9時、北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター玄関前広場。
交 通：JR高崎線 北本駅西口から、北里大学メディカルセンター行バスで「自然観察公園前」下車。
担 当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大畑、近藤、柴田、関口、永野、山本(恵)、吉原(早)
見どころ：木陰が多く、風があれば意外と涼しい石戸宿。見られる鳥は少ない時期ですがトンボを中心に多くの昆虫が観察できます。探虫会になるのもまた一興。

越谷市・サギのコロニー観察会 ②

期 日：8月10日(土)
解 散：日没18:37ころ、現地で。
集合・交通・担当・見どころは、7月13日①を参照



千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期 日：8月11日(日・祝)
集 合：午前9時30分、ふなばし三番瀬海浜公園バス停留所付近。注：JR船橋駅での受付はしません。

交通：京成バス9:00発 船橋海浜公園行に
乗車し、終点下車。京成バス乗り場
は京成船橋駅付近にあります。
解散：正午ころ、集合地で。
担当：菱沼（一）、浅見（徹）、佐久間、佐
野、杉本、菱沼（洋）
見どころ：越夏中のミヤコドリやコアジサシ、シ
ギ・チドリを観察します。埼玉で見ら
れない鳥たちに出会えます。日焼け
対策と熱射病対策は十分にお願ひ
します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：8月18日（日）
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交 通：JR北浦和駅東口バスターミナルから

東武バス①番乗り場 さいたま市立病
院行で終点下車。

後 援：さいたま市立浦和博物館
担 当：浅見（徹）、青木、浅見（健）、菅野、
小菅、小林（み）、楠見、富田（英）、富
田（由）、中橋、畠山、三好

見どころ：天候次第ですが、見沼代用水西縁
沿いの木陰道を歩いて夏の見沼た
んぽに居残る鳥たちを探す予定で
す。暑さに強い人限定です。

埼玉Young探鳥会@川越市・伊佐沼

期 日：8月24日（土）

担 当：廣田

※サギのねぐら入り観察を予定しています。詳細は
7月下旬にHP・SNSでお知らせします。

『しらこぼと』2019年7月号p8から、抜粋掲載。

探鳥会における熱中症対策ガイドラインについて

普及部

この時季になると「身に危険を及ぼす暑さです。不要不急の外出は控えてください」という注
意喚起が連日出されます。行事案内冒頭の「悪天候の場合、探鳥会は中止です」に「猛暑」も含
めます。普及部で以下の熱中症対策ガイドラインを作成しましたのでご一読ください。

【熱中症ガイドラインの概要】

- ・探鳥会前日に発表される、開催地周辺の当日の熱中症情報（暑さ指数・WBGT*）で、開催の
可否を判断する。
- ・具体的には通常の午前半日の探鳥会では、9時と12時時点の暑さ指数に着目。

①「危険」（WBGTが31以上）の場合（9時または12時時点のいずれかでも。以下同様）
：探鳥会は原則中止とする。

②「厳重警戒」（同28以上31未満）の場合
：探鳥会はメインリーダーの判断によって中止する。または時間短縮・コース変更を行う。

③「警戒」（同25以上28未満）の場合
：探鳥会では参加者に注意喚起し、時間短縮、コース変更も検討する。

（*）WBGT：湿球黒球温度でWet Bulb Globe Temperature。WBGTの本来の単位は「℃」だが、気温（℃）との混同を避け
区別するために環境省では単位のない指数として表記・発表している。

探鳥会に参加する場合は、前日に熱中症情報をチェックしてみてください。中止の場合は可能
な限り当会HPにもその旨を掲載する予定です。また、中止の場合でも集合場所にリーダーが出向
いて「中止」をお伝えします。

引き続き事故や怪我のない安全で楽しい探鳥会の運営に努めてまいりますので、会員の皆様
のご理解ご協力をお願いいたします。



行事報告

11月15日(水)	川越市 伊佐沼
参加:38(会員33)名	天気:曇時々晴

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ミコアイサ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、イカルチドリ、コチドリ、タシギ、オオハシシギ、アオアシシギ、イソシギ、ハマシギ、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ(33種) 11月の見どころは、天気が悪いと開かない絶滅危惧種のキタミソウの花。雲の合間からわずかに届く日差しに応えた小さな花を見ることができた。カモは、ここでは珍しいミコアイサはじめ7種。シギチドリ類も7種。

(小林みどり)

11月18日(土)	春日部市 内牧公園
参加:25(会員24)名	天気:晴後曇

コジュケイ、キジバト、アオサギ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、アオジ、オオジュリン(26種) 久々にキセキレイ1羽、アカゲラ2羽が出現、両種を見ることができた。その後は定番の小鳥をゆっくり観察し、下見より多い種数となった。

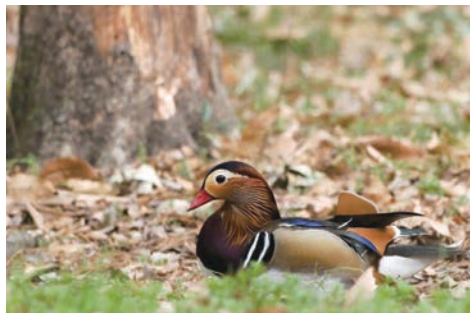
(石川敏男)

11月18日(土)	さいたま市 見沼自然公園 Beginner
参加:17(会員12)名	天気:晴

コジュケイ、オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、タシギ、ハイタカ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、

カワラヒワ、ホオジロ、アオジ(38種)(番外:ドバト) 少人数限定のため、みなさんの顔が見える探鳥会。まずは双眼鏡の使い方指導からスタート。9種類のカモ類を観察でき大満足。特にオシドリのオス1羽は換羽中で、越冬してくれればと願うばかり。

(大井智弘)



越冬した見沼自然公園のオシドリ(編集部)

11月19日(日)	嵐山町 菅谷館都幾川
参加:35(会員31)名	天気:快晴

コジュケイ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、バン、クサシギ、トビ、ハイタカ、カワセミ、コゲラ、サンショウクイ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、アトリ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(37種)(番外:ガビチョウ) 広場の端にジョウビタキ♂、雑木林の中でイカルの声、ホタルの里でリュウキュウサンショウクイの声。都幾川左岸に出ると遠くでハイタカが帆翔。右岸ではシメが梢にとまり、畑にタヒバリ、アトリ♀などがいた。

(千島康幸)

11月19日(日)	さいたま市 三室地区
参加:43(会員36)名	天気:晴

キジ、オカヨシガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ツミ、ハイタカ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ(35種)(番外:ドバト) 芝川にはカモがいない。オオバン

が目立つ。農耕地で小鳥を探すが少ない。遠くの鉄塔にチョウゲンボウ。上空に猛禽2羽。その飛翔を堪能した。小鳥が少ないのはこのせい。斜面林での休憩時に獲物を貪るチョウゲンボウを発見。(浅見 徹)

11月23日(木祝) 志木市 柳瀬川
参加:41(会員35)名 天気:快晴

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、アオジ(31種)(番外:ドバト) 水谷調節池は工事中。高橋の上流の川は浚渫で中州が消え、川岸は整備され、遊歩道は嵩上げして舗装された。イカルチドリが群れていた玉砂利地域は草が伸び過ぎて環境悪化。一方、セキレイの個体数が増えている印象。(鈴木秀治)

11月25日(土) 蓮田市 黒浜沼
参加:37(会員31)名 天気:晴

キジ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、コガモ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、クイナ、オオバン、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ(30種)(番外:ドバト) 「蓮田市環境学習館」が使える、久々に開催。前は歩道の脇まで広がっていたヨシ原が後退し、小鳥類が見にくくなった。沼も、ちょっと寂しい感じではあったが、予想外のトモエガモやミコアイサに会えた。冬の小鳥類も集まり始めている。「環境学習館」が工事のため、また使用不可になるとのこと。(小林みどり)

11月25~26日(土~日) 宮城県 伊豆沼・蕪栗沼・志津川湾・女川
参加:26(会員26)名 天気:晴

ヒシクイ、マガン、カリガネ、ハクガン、シジュウカラガン、コクガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビ

ロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、クロガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、ヒメウ、カワウ、ウミウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ツルシギ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミスズメ、ミサゴ、トビ、チュウビ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、オオジュリン(76種) 初日の志津川湾では、コクガンを近くで見られた。その後、伊豆沼野鳥観察館へ移動して屋上からマガンのねぐら入りを観察。夕食は宴会で盛り上がった。2日目の早朝の蕪栗沼では、マガン達の飛び立ちが沼の奥から始まりほぼ一斉となった。『すごい』。朝食後、女川町に移動し、女川町離島航路の船上から海鳥を探した。昼食には、特産のクジラの刺身とタタキを食べて探鳥会を終了。(入山 博)

11月26日(日) 狭山市 入間川
参加:27(会員26)名 天気:曇一時雨

マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ(36種)(番外:ドバト) この時季、本来ならばカモ類が集まってくるのだが、オオバンばかりでちょっと残念。河原ではシメ、ツグミ、アオジ、稲荷山公園ではビンズイ、シロハラなどの冬鳥が見られた。(長谷部謙二)

12月2日(土) 加須市 渡良瀬遊水地
参加:39(会員32)名 天気:晴

キジ、マガン、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガ

モ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ハイタカ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン(52種)(番外:ドバト、コウノトリ) 谷中湖ではマガモやカンムリカイツブリが目立つものの、ヨシガモやミコアイサも。そして今年もマガンが飛来。木陰からハイイロチュウヒ(雌タイプ)が飛び出し、上空にはミサゴにトビ柱。ヨシ原ではベニマシコが度々姿を見せてくれた。(佐野和宏)

12月2日(土) 所沢市 狭山湖
参加:29(会員27)名 天気:快晴

コジュケイ、オカヨシガモ、ヨシガモ、マガモ、コガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ(39種)(番外:ドバト、ガビチョウ) 昨冬大群が越冬したトモエガモが今冬は入らず、カンムリカイツブリが主役の座を守った。カワアイサとミコアイサが揃って出現して楽しませてくれた。ツグミ、シロハラ、ルリビタキ等の冬鳥代表陣が出揃い充実の探鳥会。

ミコとカワ アイサの二種も 加わりて
師走の狭山湖 顔ぶれ楽し (石光 章)

12月3日(日) 北本市 石戸宿
参加:48(会員44)名 天気:快晴

マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、クイナ、オオバン、トビ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、

シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、アトリ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ、アオジ(31種)(番外:ガビチョウ) 霜が降り一面うっすらと白い。ところが、園内は黄葉、紅葉で秋。ふれあい橋からツグミ、ジョウビタキを確認。アトリの群れが上空を横切る。銀杏の黄色の中でじっとしているシメや黄葉の樹木の中を移動するエナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラが見られた。(吉原俊雄)

12月3日(日) さいたま市 民家園周辺
参加:28(会員26)名 天気:晴

コジュケイ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、クサシギ、イソシギ、ユリカモメ、ハイイロチュウヒ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン(43種)(番外:ドバト) 調節池ではカモがお休みモード。その周りにカンムリカイツブリやハジロカイツブリ。不意にハイイロチュウヒ雌が飛び立った。少し移動して見るとトモエガモの姿も。調節池内の木にはノスリが止まり、ベニマシコやオオジュリンといった冬鳥の声も。(須崎 聡)

12月10日(日) 熊谷市 大麻生
参加:30(会員26)名 天気:快晴

コジュケイ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、オオバン、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ(36種)(番外:ガビチョウ) スタートしてすぐに、木をつつく音が響く。土手に上がって桜の木の裏側にアカゲラを見つけた。河原では魚を掴んだミサゴが上空を旋回。冬鳥の出が物足りない感はあったが、まずまず。(新井 蔵)



連絡帳

見沼・さぎ山交流広場運営協議会に出席

令和6年3月19日(火)10:00~11:55、さいたま市緑区さぎ山記念館学習室で、令和5年度臨時運営会議が開催され、7団体からそれぞれの担当者が、当会からはこの件を担当している浅見徹幹事が出席しました。

会員登録情報の変更、令和6年度サテライト企画の開催会場・日時、見沼田圃基本計画アクションプラン、その他について話し合われました。

メール交換による役員会を開催

本年4月15日(月)10:15、長野誠治普及部長から、「4月14日(日)に開催した普及部会の結果を受けて、令和6年7-8月探鳥会計画(案)」を役員会の第1号議案として上程する。」とのメールが届き、事務局担当海老原美夫は、その令和6年7-8月探鳥会計画(案)を添付して、「この議案につきご意見ご異議がある方は、4月18日(木)午後2時までに、埼玉役員会メーリングリストにお送りください。その期限日時までにご意見ご異議等が届かなかった場合は、本議案は承認されたものとします。」とのメールを埼玉役員会メーリングリストに送信しました。

その期限である4月18日(木)午後2時までに意見異議等が届かなかったため、本議案は承認され、役員会メーリングリストで、その旨が通知されました。

7月の総会開催を目指し準備中

詳細については、本誌次号の7-8月号でお知らせする予定です。7-8月号は、7月上旬にお手元に届く予定です。

会員数は

2024年4月1日現在

おおぞら会員 578人

赤い鳥会員 462人

生涯会員 17人

個人特別会員 72人

家族会員 341人

前回の2月1日現在から16人増、合計1,470人です。

編集後記

くちばしと脚が赤くなり、婚姻色への着替えを始めたアオサギを4月11日に撮影し、13日には16羽のムナグロに出会った。18日、コチドリの声は、春の鳥たちの季節が始まったことを高らかに知らせるホイッスル。(海)

中国に返還されたパンダのシャンシャン、日本語が聞こえると反応して柵の前に出てくるとのこと。シャンシャンも故郷は懐かしいのか興味深いニュースでした。思うに野鳥の故郷って繁殖地？親鳥になれば子育てに忙しく望郷の念など感傷に耽っている暇はなさそう。(相)

しらこぼと 2024年5-6月合併号(第464号)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <https://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org またはTEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。